

## 海外留学の成果報告

同志社大学  
文学部4年

谷口 昂洋

留学先 中国（上海）

留学期間 平成29年8月28日

～平成29年9月29日



福井県上海事務所が入居するビル

### 支援企業

株式会社福井銀行

### 担当者

経営企画グループ人財開発チーム 勝木昭宏

### 担当者から一言

今回の留学で得られた語学力や肌で感じた中国の商習慣は、今後谷口さんが社会人になるにあたって必ず生かせる経験です。今後日本は外国人訪日客の増加だけでなくあらゆるビジネスシーンで海外との結びつきが強くなっていくと考えられます。今回の留学で支援を受けた方々への感謝の気持ちを忘れず、今後の社会人人生に生かしてください。



語学学校の友人達と

## ①留学をしようと思った動機

私は大学にて海外留学や海外インターシップの運営を経験してきた一方で、地元である福井県の人口減少に対する課題意識をずっと持ち続けていました。人口減少がもたらす県内事業の縮小による経済全体の衰退は福井県が抱える大きな問題であり、今後は国内における事業を維持するだけでなく、ニーズのある海外市場へ積極的に事業を拡大していくことが、必要なのではないかと考えていました。そこで、今後は自分の異文化経験を少しでも福井県のために活かし、経済の活性化に繋がられる生き方をしていきたいと考えていました。そんな私にとって、このトビタテ！留学 JAPAN 地域人材コースは、県内企業様の海外施策とそれを取り巻く環境を俯瞰でき、自分の軸を明確にできる点で魅力的だと思い、志望するに至りました。

## ②留学の内容および成果

今回の留学では、福井県上海事務所を拠点とした海外営業を主に経験させて頂きました。約15日間、上海市全域と蘇州を行き来しながら、県内企業の現地法人を訪問し、駐在されている方々と平日・休日を問わず交流させて頂きました。また、銀行主催の商談会や福井県人会主催の交流会にも参加させて頂きました。

留学中は公共交通機関を使い様々な場所へ行かせて頂いたため、発音の違いに苦しんだり、相手に伝えたいことが伝わらなかったりと挫折しながらも、中国語の語用的知識を定着させることが出来ました。現地で生活するツールとしての中国語の重要性に気づくことができたため、今後も学び続けていきます。

また、現地の駐在員の方々と交流させて頂く中で、学生の間では知ることが難しいビジネスマナーを習得できました。その際は中国の文化と比較しながら、日本人として日本企業の商習慣を深く知り、視野を更に広げることができました。加えて中国の商習慣についても分かったことがあります。例えば、ハイコンテクスト文化なのは日中共通ですが、中国の場合は平気で割り込みをする等、日本よりも前へ前への意識がある印象を受けました。これは列を作り並ぶ等、礼儀作法を重んじる日本人とは真逆です。この国民性はビジネスシーンでも顕著らしく、中国では組織よりも個人の生き方を重視するため、転職に対して寛容であるとも知りました。いずれにせよ、日本とは対極の文化ともいえる中国で活躍されている駐在員の方々と協働した経験は、今後ジャンルの違う方々との意思疎通を図る際にも活かしていけると思います。

今回の実践型留学では、国外における福井県主導の事業が福井県にもたらすメリットを知ると同時に、解決したい県内の問題にアプローチするために自分が今後の人生で何をすべきか深く考えることができました。今後もこの経験を忘れず、努力していきます。



上海ものづくり商談会にて